

## 「日本介護福祉士会創立 30 周年に寄せて」

国立長寿医療研究センター 名誉総長

認定介護福祉士認証・認定機構 機構長

大島 伸一



30 周年おめでとうございます。現在、資格を持った介護福祉士は 190 万人を超える専門家の一大集団です。これが 30 年前では 4 万人くらいでした。恐らくこれほど急成長した専門職は他に見当たらないのではないのでしょうか。この背景には超高齢化に伴う介護需要の急速な増大があります。それに合わせた国の社会保障政策も急速に進んでいます。「治す医療」から「治し支える医療」へと大きく医療の理念の転換を行い、それに伴って医療と介護を一体として提供する「医療介護総合確保推進法」を制定するなど、これまでになかった政策が次々と展開されています。

これほど介護への需要が急増しているにもかかわらず、国家資格を持った唯一の専門家である介護福祉士の存在感が薄いのは何故でしょうか。社会では介護と言えばヘルパーとかケアマネのことだと思っている方が大半です。確かにヘルパー（訪問介護員）には様々な介護職が従事していますが、国家資格を持つ専門家は介護福祉士だけです。よく知られているケアマネジャー（介護支援専門員）は重要な役割を担ってはいますが、そもそも介護職ではありません。

30 周年という大きな節目にお祝いの言葉とはとても言えないような内容を書き連ねてしまいましたが、福祉の時代と言われる今こそ、超高齢社会の切り札として唯一の介護の専門家であるという自覚と自信を持って、日本の社会を支えていっていただきたいと思います。